



# 芭蕉好き必見！ 「奥の**極**細道」

東北学院大学

region-five

江戸→大垣に要した日数は約150日、その距離なんと2400キロ。決して楽な道のりではなかったはず…

芭蕉がわざわざ立ち寄った場所や長く滞在した場所があるのはなぜか

「奥の細道」で東北を旅した芭蕉の「想い」を巡らす

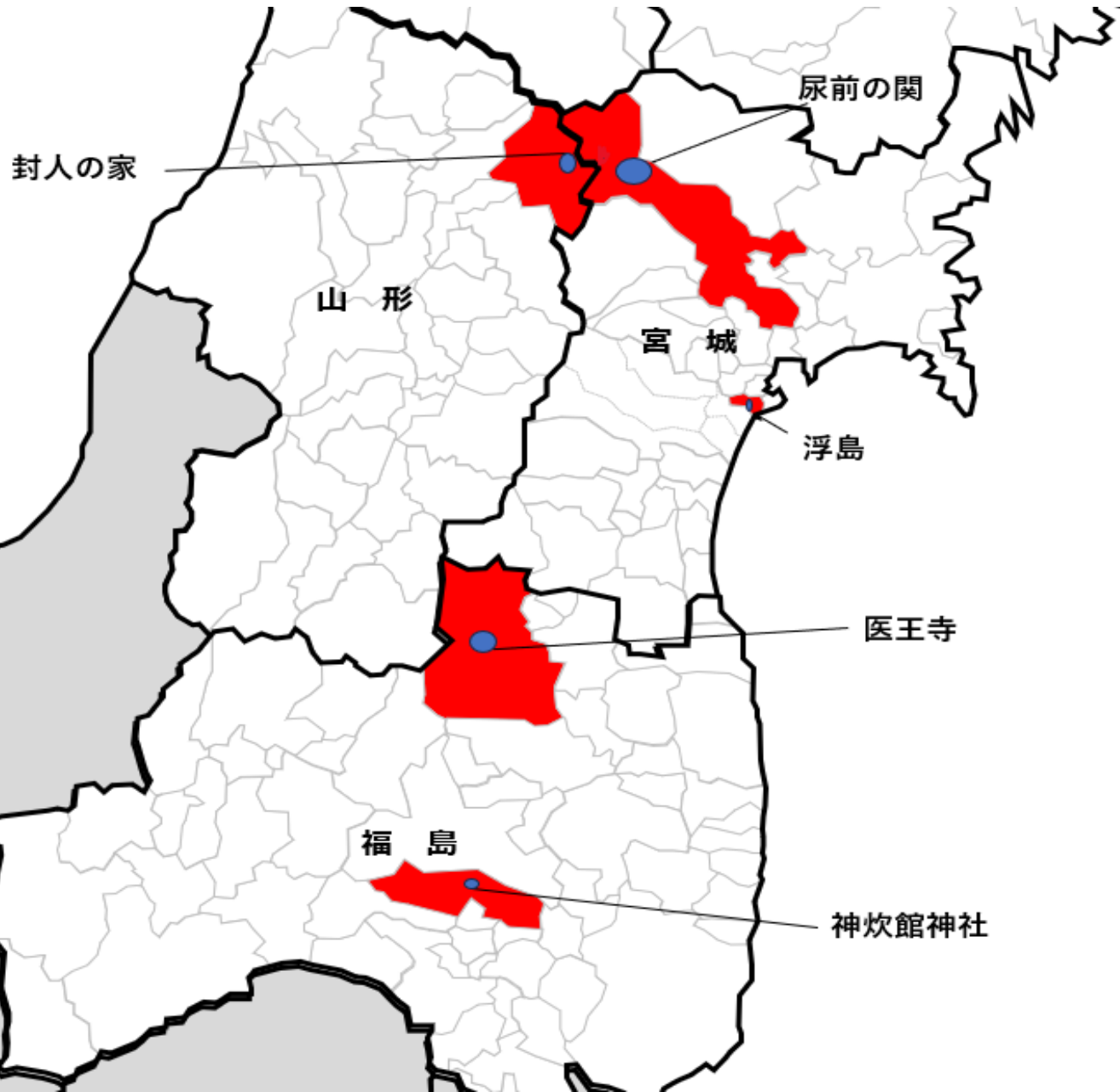
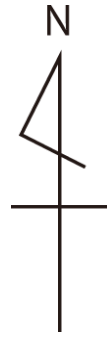
奥の細道の冒頭にある「月日は百代の過客にして…」とはどういう意味なのか

奥の細道で伝えたかった芭蕉の「想い」とは

芭蕉は**何を「想い」、どのような「想い」**で旅をしたのか。それを感じ取るには道中の様子や思い出のある場所、感情を表現した場所など、一度や二度だけでは知り尽くすことができなかった芭蕉の「想い」に触れられる**3周目**に訪れるべきスポットを設定

# 地図

Map



## 【2泊3日で巡るドライブ】

Start 仙台駅

①浮島神社

②尿前の関

③封人の家

④神炊館神社

⑤医王寺

Goal 仙台駅

# 対象と成果

Target and Results

## <対象>

「おくのほそ道」の旅路を巡るのが**3周目**の人



## <成果>

芭蕉の気持ちを感じることができる

「こんな場所も芭蕉が訪れていたんだ」と驚くことができる  
1周目2周目とはまた違ったものを体感できる



# ①浮島神社 Ukishima Shrine (宮城県多賀城市)

芭蕉はなぜここに寄ったのだろうか？



『おくのほそ道』には記載されていない

随行した弟子の河合曾良の『曾良旅日記』には、浮島に立ち寄ったことが記載されている

山口女王が大伴家持へ遣わした歌（新古今集に所収）

この歌に詠まれた歌枕「浮島」であり、仙台から塩竈へ向かう道中にみたとされ、芭蕉の歌人としてのマニア気質がわかる

スタート地点の仙台駅から多賀城までに芭蕉は、  
仙台東照宮・榴岡天満宮・陸奥国分寺薬師堂・  
妙心院芭蕉翁墓を訪れている

## ②尿前の関 Shitomaenoseki (宮城県大崎市)



戦国時代、出羽のもがくと境を接する尿前の岩手の森に、岩手の関があった

伊達藩になってから、尿前境目と呼ばれ、1670年尿前番所を設置、岩出山伊達家から横目役人が派遣され、厳重な取り締まりが行われた

1689年、芭蕉と門人曾良は通行手形を持っていなかったといった理由から、この関所で怪しまれ厳しい取り調べを受け、ようやく通過した

通行の難所となったが、自然に囲まれたこの地は晴れば綺麗な写真が撮れる  
近くに遊歩道があり少々歩いて森林浴を楽しむことも可能である  
ここで旅が中断しかけた芭蕉は何を思ったのだろう？

宮城県の北西にあり、  
県境に近いこの地は、周囲を森に囲まれており、  
ここにたどり着くまでの努力は計り知れない



### ③封人の家 Houjin's House (山形県最上郡最上町)



芭蕉と曾良が山形県にて最初に投宿した家として有名

2泊3日にわたって“封人の家”に逗留し、その時の印象を「蚤虱馬の尿する枕もと」の句で表現した

この地に2泊3日も滞在することになった理由は大雨で仕方なく…

ここで読まれた句の背景には人馬が一つ屋根の下で馬を大切に扱う環境があったようだ

温かみのある室内と木造が心を落ち着かせる  
尿前の関での疲労をここで癒したに違いない

芭蕉の泊まったところとして、  
宮城県登米市にある、芭蕉翁一宿の碑が  
あげられている

# ④ 神炊館神社 Otakiya Shrine (福島県須賀川市)

芭蕉はここで何を願ったの  
だろうか？



須賀川近郊には、  
芭蕉が吉田祐碩に勧められて訪れた  
乙字ヶ滝（福島県玉川村）がある

芭蕉は、俳友の相楽等躬を訪ねて、須賀川に8日間滞在した

本当は…

もともと須賀川には7日間滞在する予定だった  
→しかし、連日の雨で川を越えることができないからと1日  
延期して8日間になった

7日目の午後、矢内彦三良宅の帰りに、十念寺を参詣し、  
参拝した神社

**本来の予定通りに進んでいたら、  
芭蕉が訪れなかったかもしれない！**

見どころ

須賀川は俳諧も盛んだったので、境内には、奥の細道碑を  
はじめとした、句碑がある  
また、神社なので、参拝することができる



# ⑤ 医王寺 Iou Temple (福島県福島市)

芭蕉はなぜ泣いたのだろうか？



医王寺を訪れる前、  
文知摺観音(福島県福島市)に  
芭蕉は寄っている

医王寺は奥州藤原氏の一門であり、飯坂を治めていた佐藤氏の菩薩寺

佐藤氏の息子二人は、源義経に付き従い、義経の身代わりとなり壮絶な最後を遂げたと言われている

息子二人を失った悲しみにくれる老母のために嫁たち(若桜と楓)が武将の姿をして慰めた

芭蕉は、旧跡を巡り一族の悲劇に思いをはせ、涙を流した。特に医王寺では「兄弟それぞれの嫁(若桜と楓)の墓標が真っ先に胸を打つ。女の身で、よくもけなげな名声が世に知れわたったものだと、感涙に袂をぬらした」(意識)と、「ほそ道」につづられている

芭蕉が旅の途中で涙を流したのは全部で4回と言われているが、その1つが医王寺で流した涙と言われている

もう1つは、平泉！

# まとめ

## Summary

芭蕉の行く道の途中だからこそ、こだわりや感じられ、人となりを深掘りできる

芭蕉が訪れた自然景観の詳細な描写を見られる

俳句と照らし合わせたり、芭蕉が感じた感情を共に想起できる

より深く芭蕉の見たもの、聞いたもの、描かれたものについて知りたい人だからこそ  
楽しめるスタンプラリーになっている

**共に芭蕉のあしあとをたどってみませんか？**

<スタンプラリーの景品>

スタンプ2個以上      塩まんじゅう5個 & くるみ柚餅子10個

スタンプ5個      南東北満喫セット(くじら餅 & おにッキー。 & 甘香煎餅夢花)

